



経済の2分化、勝ち組と負け組、国内と世界における現実

クロダイインターナショナルコンサルティング

黒田 毅

これら時代変化と市場変化への対応は新しい企業基準と社会基準における企業構築を要求する。ここに勝ち組と負け組があるのである。もはや過去は通用しないのであり、国内市場と世界市場において、これは同様である。明確な理解は競争原理における勝者が存在し、敗者が存在することである。世界に拡大すれば政治との関連とともに、経済戦争は結語を有すると理解できるものである。

これら先端企業における新しい企業運営システムと環境は、革命的变化を有するのであり、これら独創性は、既存現実で否定されたとしても、今日その賞賛以外与えられないのである。

これらは先端性と競争において勝ち組と負け組が存在する。これら時代変化を牽引することは独創性であり、彼らのプレゼンスはもはや否定できないのである。

これら独創性という新しい現実は、企業環境に対して大幅な変化を与えるものである。これら独創性という観点から現実を考察するとき、アメリカの絶対的な強さが存在する。これら創造性は明らかに現実を支配しているのである。

これは既存性にしがみつ়くことが、現実への参加を不可能とするのである。これら革命的市場の変化は存在する中、変化を行うことができないことは、企業経営を困難にするのである。

これらは第二の産業革命という真実において、変化と向上が存在するのである。これらを牽引するのは独創性という現実なのである。

既存産業は独自技術や、その進歩において、対応できるものである。しかし世界における変化は、その参加者が、全ての国家において存在し、新しい競争環境を与えるなか、そこには絶対勝者が存在するのである。

これらビジネスの世界を夢見る多くの若者は、新しい未来の創造を担っているのである。

これら市場環境はこれら変化を有するなか、その影響は全ての現実に対して変化を要求しているのである。